

【平成25年度 日中活動系事業所の過不足検証】

1 日中活動系事業所

※ 線 昨年度検証後からの新規事業所

(1) 地区別一覧 ※市内中央を縦断している東名高速を境に東西で分ける。

東部地区 15事業所(H24対比+2)	西部地区 15事業所(H24対比+3)
夢の家(明知町)	春日井市福祉作業所(浅山町)
けやきの家(廻間町)	第一希望の家(王子町)
はさま(廻間町)	なかぎりワークス(中切町)
わかば(廻間町)	ナップの森(東野町)
春日苑(廻間町)	ぬくもり(朝宮町)
第二希望の家(岩成台)	あざみの家(林島町)
パレットハウス(高森台)	ワーカー鷹来(鷹来町)
ナップの森(押沢台)	かすがいフォレスト(八田町)
ゆうゆう倶楽部(石尾台)	ベスト(中央通)
ラズベリージョブズ(高蔵寺町北)	ピア・ステーション勝川(長塚町)
かきつばた(庄名町)	セントラルキッチンかすがい(四ツ家町)
ゆずりは(高森台)	a・mi(大手町)
夢工房(高森台)	内職クラブ(東野町)
徒夢創屋(押沢台)	のどか(旭町)
地域活動支援センター坂下(坂下町)	パレットハウス(柏井町)

※日中活動系事業所マップ参照 (第1回自立支援協議会にて配布)

(2) サービス体系別

生活介護 全9か所	東 部 6か所	夢の家	
		春日苑	
		けやきの家	
		はさま	
		わかば	
		第二希望の家	
生活介護 全9か所	西 部 3か所	春日井市福祉作業所	
		第一希望の家	
		パレットハウス(柏井町)	
		ナップの森(押沢台)	
		ゆうゆう倶楽部	
		ラズベリージョブズ	
地域活動支援センター全10か所	東 部 4か所	徒夢創屋	
		ナップの森(東野町)	
		ぬくもり	
		ピア・ステーション勝川	
	地域活動支援センター全10か所	西 部 3か所	はさま
			パレットハウス(高森台)
			地域活動支援センター坂下
			はさま
			パレットハウス(高森台)
			地域活動支援センター坂下
地域活動支援センター全10か所	土日限定 東部3か所	はさま	
		パレットハウス(高森台)	
		地域活動支援センター坂下	

就労継続支援A型 全3か所	東部 0	
	西部 3か所	セントラルキッチンかすがい a・mi 内職クラブ
自立訓練(生活) 全1か所	東部 1か所	わかば
	西部 0	
就労移行支援 全3か所	東部 2か所	ゆずりは パレットハウス(高森台)
	西部 1か所	ベスト
就労継続支援B型 全10か所	東部 3か所	わかば 夢工房 かきつばた
	西部 7か所	春日井市福祉作業所 ワーカー鷹来 あざみの家 なかぎりワークス かすがいフォレスト セントラルキッチンかすがい のどか

(3) 利用する主な障がい種別ごと

身体障がい 全3か所	東部 2か所	夢の家 春日苑
	西部 1か所	ぬくもり
知的障がい 全16か所	東部 9か所	けやきの家 はさま わかば 第二希望の家 パレットハウス(高森台) ナップの森(押沢台) ゆうゆう倶楽部 かきつばた 地域活動支援センター坂下
	西部 7か所	春日井市福祉作業所 第一希望の家 パレットハウス(柏井町) ナップの森(東野町) なかぎりワークス ワーカー鷹来 あざみの家

精神障がい 全2か所	東部 0	
	西部 2か所	かすがいフォレスト ピア・ステーション勝川
知的障がい・精神障がい	東部3か所	ラズベリージョブズ ゆずりは 夢工房
	西部 0	
3障がい利用可	東部1か所	徒夢創屋
	西部4か所	セントラルキッチンかすがい 内職クラブ a・mi のどか
3障がい、高次脳機能障がい	東部 0	
	西部1か所	ベスト

(4) 課題検証外のカテゴリー別

ア 余暇の場

事業所名	利用定員数	1日の平均実利用者数	今後の可能利用枠数
はさま(地域活動支援センター)	15	13	2名程可
パレットハウス(高森台 地活)	10	8	—
地域活動支援センター坂下	12	12	—

イ 有目的、有期限の事業所

事業所名	利用定員数	1日の平均実利用者数	今後の可能利用枠数
わかば(自立訓練 生活)	6	4.4	2名程可

ウ 精神障がい者が主に利用する事業所

事業所名	利用定員数	1日の平均実利用者数	今後の可能利用枠数
かすがいフォレスト	20	13	5名
ピア・ステーション勝川	30	8.4	5名

(注目1) 市内にバランスよく事業所が点在してきている。

昨年度に比べて事業所数は増加。

各事業所(法人)のサービス体系に変化があったため、多少変動している。

就労継続支援A型事業所が2か所増加。

(注目2) 3障がい対応可能な事業所も増加。

福祉サービスとして、精神障がい者の日中活動できる枠数は増加している。

福祉サービス以外、居場所など、医療保健サービス含めたニーズで捉えて

いくことが必要である。

(5) 課題検証のカテゴリー別

識別基準 A創作介護系事業所(創作活動及び介護を中心とする事業所)
 B作業系事業所(労働の対価として工賃支給がなされる事業所)
 C就労移行・A型(一般就労を目指す支援を行う、雇用契約を結ぶ事業所)

A 創作介護系事業所【全11か所】	
東部 全8か所	夢の家(生活介護)
	春日苑(生活介護)
	けやきの家(生活介護)
	はさま(生活介護)
	わかば(生活介護)
	第二希望の家(生活介護)
	ゆうゆう倶楽部(地域活動支援センター)
西部 全3か所	徒夢創屋(地域活動支援センター)
	第一希望の家(生活介護)
	春日井市福祉作業所(生活介護)
	ぬくもり(地域活動支援センター)
B 作業系事業所【全13か所】	
東部 全5か所	ナップの森(押沢台)(地域活動支援センター)
	ラズベリージョブズ(地域活動支援センター)
	わかば(就労継続支援B型)
	かきつばた(就労継続支援B型)
	夢工房(就労継続支援B型)
西部 全8か所	春日井市福祉作業所(就労継続支援B型)
	ナップの森(東野町)(地域活動支援センター)
	パレットハウス(柏井町)(生活介護)
	セントラルキッチンかすがい(就労継続支援B型)
	なかぎりワークス(就労継続支援B型)
	あざみの家(就労継続支援B型)
	ワーカー鷹来(就労継続支援B型)
のどか(就労継続支援B型)	
C 就労移行・A型【全6か所】	
東部 全2か所	ゆずりは(就労移行支援)
	パレットハウス(高森台)(就労移行支援)
西部 全4か所	セントラルキッチンかすがい(就労継続支援A型)
	a・mi(就労継続支援A型)
	内職クラブ(就労継続支援A型)
	ベスト(就労移行支援)

(6) 検証該当の事業所現況、今後

A 創作介護系事業所				
東 西	事業所名	利用定員数	1日平均実利用者数	今後利用可能枠数
東部地区	夢の家	31	32	3名程度
	春日苑	80(入所者超過受け入れ)	5	若干
	けやきの家	40	46	2名程度
	はさま	20	20.4	—
	わかば(生介)	10	9.8	2名程度
	第二希望の家	16	15.5	—
	ゆうゆう倶楽部	10	1	8名程度
	徒夢創屋	10	2	1名程度
	東部地区可能枠小計			
西部地区	第一希望の家	20	19	1名程度
	春日井市福祉作業所(生介)	10	9.2	—
	ぬくもり	15	3	2~3名程度
	西部地区可能枠小計			
市内全体利用可能枠数 A計				19名~20名

B 作業系事業所				
東 西	事業所名	利用定員数	1日平均実利用者数	今後利用可能枠数
東部地区	ナップの森(押沢台)	18	11	3名程度
	ラズベリージョブズ	15	1.5	9名程度
	わかば(就B)	24	17.4	—
	かきつばた	20	5	8名程度
	夢工房			
	東部地区可能枠小計			
西部地区	春日井市福祉作業所(就B)	60	52	8名程度
	ナップの森(東野町)	12	7	3名程度
	パレットハウス(生介)	6	8	—
	セントラルキッチン(就B)	20	16	4名程度
	なかぎりワークス	40	44	—
	あざみの家	20	10.8	1名程度
	ワーカー鷹来	50	47.4	1名程度
	のどか			
西部地区可能枠小計				17名程度
市内全体利用可能枠数 B計				37名程度

C 就労移行・A型				
東 西	事業所名	利用定員数	1日平均実利用者数	今後利用可能枠数
東部地区	ゆずりは	20	11.4	7名程度
	パレットハウス(就移)	14	7	5名程度
	東部地区可能枠小計			12名程度
西部地区	セントラルキッチン(就A)	30	28	—
	a・mi	10		4名程度
	内職クラブ	20		
	ベスト	20	10	15名程度
	西部地区可能枠小計			19名程度
市内全体利用可能枠数 C計				31名程度

<p>(注目1) 創作介護系事業所 東部地区が16名可能枠がある。 西部地区は少ないものの、事業所アンケート結果にて夢の家がH26年開設予定がある。 <※アンケートにて医療行為の可否は問うてない。></p> <p>(注目2) 作業系事業所 東部地区20名、西部地区17名と利用可能枠が空いている。 単純な利用可能枠だけではなく、利用する選択肢として作業内容が加味されると思われる。 今回、A型事業所を外しているの、昨年度比較よりも数十名少ない可能枠となっている。 夢工房、のどかの利用定員枠が今回入っていないため数字プラス可能なはずである。</p> <p>(注目3) 就労移行・A型 今回初めてのカテゴリー枠。 市内全体で31名可能枠としてあるが、就労移行、A型それぞれにニーズによって利用方法が変わると思われる。 就労移行支援事業所のみで、27名枠がある。 万が一の離職者の行き先や、今後の就労B型利用のアセスメントの取り扱いなどにおいて、参考とできるのでは？</p>

2 養護学校

(1) 春日台養護学校 卒業生進路推計

年 度	東西	就労希望	就移・A型	作業系		創作系		合計
				今回	前回検証	今回	前回検証	
高3(平成26年3月卒業)	東	5	2	3	4	2	2	12
	西	2	6	3	9	2	2	13
高2(平成27年3月卒業)	東	2	0	8	6	2	4	12
	西	2	5	9	9	3	4	19
高1(平成28年3月卒業)	東	7	5	7	2	5	8	24
	西	9	3	4	3	6	9	22
中3(平成29年3月卒業)	東	0	0	0	1	8	6	8
	西	0	0	2	1	7	9	9
中2(平成30年3月卒業)	東	0	0	3	2	3	5	6
	西	0	2	2	2	4	5	8
中1(平成31年3月卒業)	東	0	0	0		4		4
	西	0	0	2		8		10
合 計	東	14	7	21		24		66
	西	13	16	22		30		81

(2) 小牧養護学校 卒業生進路推計

年 度	東西	就労、進学 希望	就移・A型	作業系		創作系		合計
				今回	前回検証	今回	前回検証	
高3(平成26年3月卒業)	東	0	0	0	0	0	1	0
	西	0	0	0	1	2	2	4(2未定)
高2(平成27年3月卒業)	東	0	0	0	0	1	1	1
	西	0	0	0	0	0	0	0
高1(平成28年3月卒業)	東	0	0	0	0	0	0	0
	西	2	0	0	0	1	1	4(1未定)
中3(平成29年3月卒業)	東	0	0	0	1	1	1	2(1未定)
	西	0	0	0	0	1	2	2(1未定)
中2(平成30年3月卒業)	東	1	0	0	1	0	0	1
	西	1	0	0	1	1	1	2(1未定)
中1(平成31年3月卒業)	東	0	0	0		2		3(1未定)
	西	1	1	0		2		4
合 計(高3～中1)	東	1	0	0		4		5(2未定)
	西	4	1	0		7		12(5未定)

(3)2校の今後6年間における推計

	総数	東部	西部	昨年度比	東部	西部
卒業する市内在校生総見込数	171			4+		
創作介護系を利用する生徒見込数	65	28	37	8-	6-	2-
作業系を利用する生徒見込数	43	21	22	14-	3-	11-
就職・進学希望する生徒見込数	32	15	17			
就労移行・A型を利用する生徒見込数	24	7	17			

- (注目1) 春日台養護学校で、来年度市内卒業生25名中(18名が事業所希望)
 今後6年間にて、147名が卒業(東部66名、西部81名)
 小牧養護学校で、来年度市内卒業生4名中(2名創作系希望)
 今後6年間にて、24名が卒業(東部7、西部17名)
- (注目2) 全体的に西部地区の在校生が多い。
- (注目3) 春日台養護学校の推計については、高等部以上が希望、中等部は療育手帳で判断(Aが創作介護系、Bが作業系、C就移・A型)。
- (注目4) 毎年度受験にて高等部へ入学する者がいるため変動する。

3 検証結果

検証カテゴリー	区分	H26.3月卒の希望	今後利用可能枠数	今後予測事態
A創作介護系	全体	6名	19~20名	14~13名+
	うち東部	2名	16若干	14名+
	うち西部	4名	3~4名	1名~0名
B作業系事業所	全体	6名	37名程度	31名+
	うち東部	3名	20名程度	17名+
	うち西部	3名	17名程度	14名+
C就労移行・A型	全体	8名	31名程度	23名+
	うち東部	2名	12名程度	10名+
	うち西部	6名	19名程度	13名+

検証カテゴリー	区分	希望、推測生徒6年	今後利用可能枠数	今後予測事態
A創作介護系	全体	65名	19~20名	45名~46名不足
	うち東部	28名	16若干	12名程度不足
	うち西部	37名	3~4名	33名~34名不足
B作業系事業所	全体	43名	37名程度	6名程不足
	うち東部	21名	20名程度	1名程不足
	うち西部	22名	17名程度	5名程不足
C就労移行・A型	全体	24名	31名程度	7名空き
	うち東部	7名	12名程度	5名空き
	うち西部	17名	19名程度	2名空き

検証結果まとめ

- 来年度は、数字的にはどのカテゴリーにおいても充足する。
- 今後6年間については、不足があるが、昨年度比から改善している。
(昨年度検証 6年間 創作介護系47～48名不足、作業系8名不足)
- 就労移行支援、A型利用については、十分充足する。

今後の課題

- 離職者や今後の希望者によって変動はあるため、動向を追うべきである。
- 単純な数字比較での検証では表れないものを課題として捉えていくべきである。
(ニーズ別の把握、事業所ごとに利用しきれてない現状など。)